



宝塚市立売布小学校 学校長 藤山 昌生

毎日のニュースを見ていますと、「前線の影響を受け線状降水帯が発生し、記録的な大雨…」という言葉を目にします。雨が私たちにとって、大切な自然の恵みであることはよく分かっていますが、想像を超えるような自然の猛威に抗うことは難しく、いろいろな場所で被害も出ています。被害を受けた地域では、日々の生活に大きな影響が出ていることと思います。

5年生が自然学校で訪れた県立円山川公苑では、カヌーやカヤックの少人数での体験は苑内の池で、大人数で行うカッターは円山川で実施します。川幅もとても広く普段は穏やかな円山川ですが、平成16年(2004年)の台風の際の大雨では、円山川の堤防が決壊し周辺地域に甚大な被害が出ました。豊岡市には防災の観点から「実際にこの高さまで浸水した」という表示もされています。当時、私も豊岡市の学校園の早期再開のためにボランティアに参加し、幼稚園の清掃をしました。床を何度も拭き上げきれいになったようには見えても、しばらくすると白く泥が浮き上がってきたことを今でも覚えています。元の生活に戻るにも相当の労力や時間が必要であるので、被害を受けた地域に平穏な生活が戻ることを祈るばかりです。

梅雨明けはまだ先になりそうですが、7月に入り暑さも厳しくなってきます。今は1学期のまとめの時期です。残り約3週間で、しっかりと学習のまとめをして、夏休みを迎えたいと思います。

★5年生は、6月26日(月)から30日(金)まで、天候が心配されましたが、自然学校を無事終えることができました。4泊5日の中で、カッター・カヌー・カヤックの体験、水生生物の観察、野外炊事、藍染め、アマゴつかみ、キャンドルファイヤー等、学校や家庭を離れ、自然の中で充実したプログラムを実施することができました。

今回宿泊で利用した丹波少年自然の家は、この6月30日をもって長い歴史に幕を下ろすこととなりました。今年の売布小学校の5年生が、本当に最後の自然学校となりました。丹波少年自然の家「閉所式」をプログラムの中に盛り込み、これまでお世話になったすべての児童を代表して、自然学校の思い出や感謝を伝えました。

ありがとう、自然学校。ありがとう、丹波少年自然の家。



<カッター体験>



<野外炊事(カレー作り)>



<キャンドルファイヤー>